

池口岳 山行報告

【山城】南アルプス深南部

【ルート】池口岳登山口～池口岳北峰～池口岳登山口

【登山方法】日帰り登山

【参加者】CL 鈴木憲二 鈴木愛子（記録）

【行程】

○11/23（金）千葉⇒中央道 松川 IC⇒道の駅 遠山郷（車中泊）

○11/24（土）道の駅 遠山郷 3:00⇒3:35 池口岳登山口 4:00 登山開始→面切平 5:00→6:50 黒薙の頭 7:06
→テント場 8:20→やせ尾根→加加森分岐 10:08→10:25 池口岳北峰 10:55→下山は往路を辿る。
→池口岳登山口 15:40 着⇒道の駅 遠山郷で日帰り温泉 かぐらの湯で汗を流す。車中泊

○11/25（日）道の駅 遠山郷⇒中央道 松川 IC⇒帰葉

【記録】

○11/24（土） 天気 晴れ

道の駅で 2:30 起床。池口岳登山口に向かって 3:00 出発。登山口よりずっと手前の林道の左端に登山届ポストがあり、そこで登山届をポストに入れる。（登山口には登山届ポストがない）登山口に 3:35 着。駐車スペースは 7 台位可能。すでに 4 台駐車していた。簡易トイレあり。

今日は長丁場なので、夜明け前の暗い中、ヘッドランプをつけ 4:00 登山開始。満月が煌々と照っていて、空気がピリッとして冷たくとても寒い中、歩き始める。徳造平に向けて常緑樹の樹林帯の中を進む。面切平でテント泊のテントを見、月明かりの中、更に進む。



池口岳登山口（朝は真っ暗だったので、下山した時の写真）

黒薙の頭の手前で道を間違えてしまった。尾根からはずれ、唐松林をトラバースしている道に入ってしまった。踏み後がしっかりあって、両足の幅位の細い道。その道を歩いている時、唐松の落ち葉と落ち葉の間の土が霜で凍っていて、それがヘッドランプに照らされてダイヤモンドやプラチナの様に光り輝いて見え、とても美しかった。しばらくするとそのトラバースの道がなくなってしまい、「これはおかしい」と夫が GPS を見て、登山道からずれている事を確認し、GPS を見ながら斜面を登り、登山道に戻ることが出来た。が、トラバースの道が登山道と並行していた感じで、そんなに長い距離ではなく、時間的にはそんなに沢山のロスはなかった。

黒薙の頭への登りの途中でヘッドランプを外す。（6:15）暖かい朝日を浴びながら黒薙の頭で朝食をとる。黒薙の頭で初めて池口岳の北峰と南峰が見えて、まだまだ遠いなあと思う。



黒薙の頭からの池口岳 左が北峰 右が南峰（朝ではなく下山の時撮ったもの）

台風による倒木が多く、登山道をふさいでいる物はチェーンソーで切断し整備されていて、感謝しながら登る。更に歩を進め、利剣沢の頭に着く。木々の間から南アルプスの山々が見えた。

ザラナギ平に着くと、テントが2張り張ってあった。近くに、「水場までここより往復1時間」という看板が沢への降り口の所にあった。そこを過ぎると急登が始まる。ヤセ尾根を進み、ロープ付きの岩場が3か所あり、一番大変だった所1か所はストックをリュックにしまい、3点支持で登って降りた。

2000mを超えた辺りから少しの雪と凍結状態の所があり、急斜面では慎重に登る。下りは軽アイゼンを付けた方が良くないかと思いつきながら歩く。まもなくして加加森山分岐に着く。更に歩を進め、頂上手前で眺望が開け、南アルプスの光岳、聖岳、上河内岳などが綺麗に見えた。光岳のてかり岩が大きく良く見えた。光岳、聖岳、上河内岳などに登った時の苦しかった登りや花がきれいだった事などが思い出された。そこからひと登りして、池口岳北峰に 10:25 着。頂上は木々に囲まれ、眺望はなかった。



池口岳北峰の頂上にて

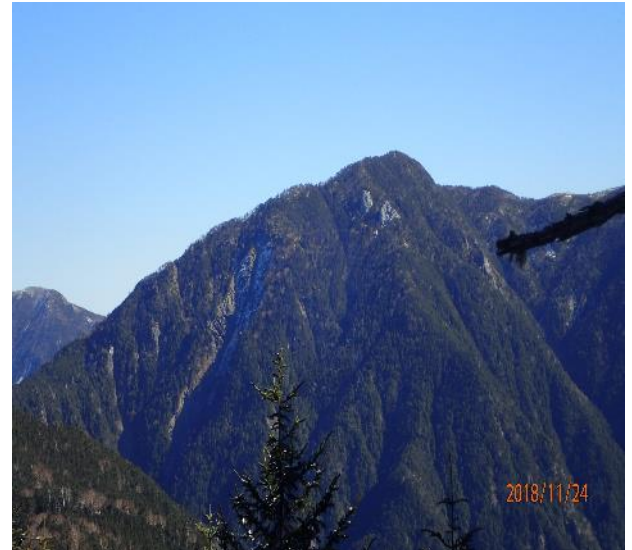


頂上から少し南峰方面へ下った所からの南峰

写真を撮ってくれた人が、「南峰への道を少し行くと、南峰が良く見え、斜面の木々が一部分霧氷が出来ているのが見えるよ」と教えてくれ、行ってみる。頂上から2～3分歩くと、南峰が良く見え、霧氷が出来ているのも見えた。が、写真を撮って帰宅後見てみると、いまいちであった。光岳から加加森山への稜線や鶏冠山、上河内岳等々が見えた。



真ん中が聖岳 左は兎岳



光岳 頂上近くの白っぼいのが光岩

写真を撮ってくれた人と山談義が弾み、そして南峰がよく見える所にも行ったりして、頂上に30分も長居をしてしまった。

私達は、もともと南峰へ登る予定はなく（時間不足の為）、往路を辿り下山する。

登りの時、雪が凍っていて下りの時は、軽アイゼンを付けた方が良くないかと思った所は、慎重に下り、軽アイゼンを付けなくても大丈夫であった。

下山の時、黒薙の頭の下を間違えた所を確認する。暗い中、ヘッドランプを付けての登りであったがどう見ても私達が間違えて進んでいった方が登山道らしくて、人の踏み後がしっかり固くついていて30～40cmの幅はあり、木に「山火事注意」の看板もついていて、落ち葉も少ししかない。下山してきた方の道は登山道には見えない。枯れ葉が沢山積もっていて、道はないように見える。

でもよく見れば、下山してきた方の側は、ピンク色のテープがその場所の木の両側に3本もついていて、「ピンク色のテープの方へ進むべし」と示している様であった。暗くなかったら、そのピンクのテープに気付いたと思う。暗くて気づけなかった。GPSに助けられ良かった。

間違った道は唐松を育てている林業の人達の仕事用の道だったのかもしれない。

赤松やシラビソ、桧などの常緑樹が多く、どんぐりや広葉樹も少し混ざった長い樹林帯を頂上から4時間45分かけて登山口まで降りてきた。途中、展望地は3カ所位、あとは木々の間から南や中央アルプスがちらほら見えるだけ、何故この山が200名山なのだろうか？ 春、夏には花が咲く所がある？等々と考えながらの下山であった。登山口着 3:40。

そしてまた道の駅 遠山郷へ向かい、今夜もそこで車中泊。道の駅 遠山郷にある日帰り温泉 かぐらの湯で汗を流し、そのレストランで、夕食を済ませ、早々に深い眠りに落ちた。

○今回の山行を終えての感想

夫の感想；天候に恵まれ、南アルプスの深南部の遠い池口岳に登ることが出来、楽しい山行であった。

山頂付近からは、光岳～加加森山～池口岳の稜線と、周回コースの池口岳～鶏冠山～シャクナゲ沢も見られて、深い山域だなと思った。

私の感想；登りの時間と下りの時間と休憩を合わせて1 1時間40分もかかった山行であった。

疲れた！

下りで、駐車した登山口に着く前の1時間位はヘッドランプを付けて歩く事を覚悟していたが、順調に歩け、ヘッドランプを付けずに済み良かった。

長丁場で膝の痛みが心配であったが、サポーターを付けたこともあってか、膝が痛むことなく歩き通すことができ良かった。